

人々の生活のなかに息づく生きた信仰―「民間信仰」に関する文献を集成。

民間信仰論選集

全5巻

西村

明編・解説

クレス出版



「民間信仰」という概念が近代日本の学術界に初めて登場したのは、姉崎正治（一八七三—一九四九）が『哲学雑誌』に寄稿した「中奥の民間信仰」（一九二七年）においてであったとされる。それ以来、仏教やキリスト教といった成立宗教に対して、庶民のあいだに伝承されてきた非組織的な信仰形態を指す概念として、宗教学をはじめ民俗学、人類学、社会学、歴史学など人文社会科学諸学において広く用いられてきた。しかし、主として宗教民俗学の領域で、現地調査に基づいた資料の収集が図られてきた。祭りや伝説、小祠や葬送習俗など、人々の生活のなかに息づく生きた信仰のあり様が数多く記述されている。近年、「宗教」や「世俗」といった諸概念や、それらに対応する社会上、制度上の領域がいかに編成されてきたのかについて再検討作業が進められてきたが、それら双方が交差する場に立ちあらわれる「民間信仰」概念の検討こそ、今や急がれるべき課題であると言えるだろう。

本選集では、一九世紀末から二〇世紀前半にかけて展開された、民間信仰論の主要なものとその時代の関連分野における「民間信仰」概念の広がりを意識した構成を心がけた。例えば、先述の姉崎の論稿を再録した八濱督郎『比較宗教迷信の日本』（一九二九年）では、迷信を打破する意図をもった眼差しと、客観的に対象に迫ろうとする学問的な探究の姿勢が微妙に交差している。また、あまり知られていないことだが、姉崎が言及する「民間信仰」は、日本国内に限定したのではなく、インド宗教史における事例にも言及している。そうした眼差しの背景には、当時のヨーロッパにおける学問動向の影響も垣間見える。他方で、加藤咄堂（一八七〇—一九四九）の『民間信仰史』（一九二五年）や、杉浦健一（一九〇五—一九五四）による一連の民間信仰をめぐる議論（一九三〇年代半ば）は、姉崎以降、戦後の堀一郎によるまとまった研究以前の民間信仰論として、この時期の動向を把握する上で欠くべからざる作品である。（東京大学大学院人文社会科学系研究科准教授）

第3巻 民間信仰史

民間信仰史

一〇六

第三章 民族信仰の基調

第一節 民族國家の成立

一 神武の東征と同民族の統一

聚落が小國家とまで進んだ時代に於て我が民族が國家的に集團せるものは少くも三つの中心があつたであらうと想定せられる。其の一つは日向を中心とする天孫系の集團であり、他は出雲を中心とする所謂出雲族の集團であり。今一つは大和を中心とする集團であつた。出雲國家は早くも天孫降臨の時に併合せられたが大和に於ける集團は未だ統一せられず。しかも、地は日本の中央にあり、日向にまします天孫の裔神磐令彦命かみいほのひこのみことは、皇兄五瀬命と議りたまひて「皇祖皇考は即ち神乃ち聖慶を積み暉を重ね、爾來多く年所を歴たりといへども、遼遠の地は猶ほ未だ皇澤に霑はず、遂に邑に君あり、村に長あり、各々其の疆を分ちて相凌轢す。吾之

三個の中心

大和

第5巻 神道思潮

八 民間信仰研究の意義

民間信仰に関する事象は、信仰そのもの、發生と起源とを一にするので、更めてその由來を説明するまでもなからう。而して民間信仰といふ特定の語を以てしたのは、古い典據に基づくとも思はれないで、恐らくは近年この種の研究が盛になつたに伴ひ、之が必然的要求として生み出され、延いて専門の領域を開拓するに至つたもので、それに就いては柳田先輩を始め、新進學者の貢獻に俟つところ頗る多いと思ふ。然らば何故にかやうな新しい學問的領域が展開せられたかといふに、従前の學問的傾向に於て、かやうな方面が多く顧られなかつた許りか、時には之を無視するやうな嫌さへあつて、往々にして公平な態度を缺いたにより、それではいつまでたつても、我々日本人の信仰形態の真相を、如實に把握し得ないといふ缺陷の横たはるのを認めたと因るといはれてゐる。即ちその類型の種々に區分せられる間にあつて、日常生活に結んで最も直接的であり、最も効果的である信仰の相を闡明すべき必要が感ぜられたからである。

民間信仰論選集 全5巻

第1巻

印度宗教史 全

●姉崎正治著／明治30年／金港堂書籍
【内容】 吠陀神話時代、優波尼沙土の哲学考察時代、婆羅門教固成時代、仏教の革新時代、宗教混沌時代、印度教確立時代、西教輸入後の印度教改革時代

比較宗教迷信の日本

●八濱督郎編／明治32年／警醒者社書店
【内容】 宗教の分類（岸本能武太）、中奥の民間信仰（姉崎正治）、洛陽の迷信（八濱督郎）、アイヌの迷信（パチエラー）、福井の迷信（永井一之助）、古今禁厭考・古今占卜考・古今俗伝集（八濱督郎）、坪井博士の俗伝談

第2巻

日本宗教史

●土屋詮教著／明治40年／早稲田大学出版部
【内容】 上古史（上古史総説、神祇特立期の宗教、儒教渡来期の宗教、仏教伝来期の宗教）、中古史（中古史総説、三教融和期の宗教、古京六宗昌隆期の宗教、台密最盛期の宗教）、近古史（近古史総説、新宗教勃興期の宗教、平民宗教普及期の宗教、基督教渡来期の宗教）、近世史（近世史総説、神儒仏分離期の宗教、東西宗教統一期の宗教）

第3巻

民間信仰史

●加藤熊一郎著／大正14年／丙午出版社
【内容】 民族信仰の考察、民族信仰の基調、文化輸入と民族信仰、民間信仰の發生、民間信仰の發達、附録民俗史話

第4巻

日本民俗学研究

●柳田国男編／昭和10年／岩波書店
【内容】 採集期と採集技能（柳田国男）、地方に居て試みた民俗研究の方法（折口信夫）、アイヌ部落探訪談（金田一京助）、南島稲作行事採集談（伊波普猷）、民間信仰の話（杉浦健一）、海の労働について（桜田勝徳）、昔話の採集（関敬吾）、冠婚葬祭の話（大間知篤三）、方言研究と郷土人（後藤興善）、協同労働の慣行（橋浦泰雄）、交易の話（最上孝敬）、民俗学と人文地理学との境（佐々木彦一郎）、独逸兩國に於ける民俗学的研究（岡正雄）、仏蘭西に於ける民俗学的研究（松本信広）、日本民族学講習會座談會速記録

第5巻

民間信仰

●権田保之助著／大正12年／実業之日本社「社会研究 娯樂業者の群」
【内容】 繁栄門、縁事門、出産育児門、疫病門、災禍門、雜載門

民間信仰の話

●広瀬南雄著／長崎法剣編／大正15年／法蔵館
【内容】 民間信仰の意味、未來觀念に伴ふ民間信仰、性的觀念に伴ふ民間信仰、占呪觀念に伴ふ民間信仰、妖異觀念に伴ふ民間信仰、民間信仰の成立事情

日本に於ける民間信仰研究の資料と方法

●杉浦健一著／昭和9年／人類学雑誌

日本「民間信仰史」研究序説

●杉浦健一著／昭和9年／宗教研究

日本仏教史に於ける民間信仰研究の必要

●杉浦健一著／昭和11年／仏教思想

民間信仰と迷信

●富士川游著／昭和7年／雄山閣「郷土史研究講座」
【内容】 序論（民間信仰の定義、迷信の定義、宗教と迷信）、本論（仏像の信仰、仏力の信仰、經典の信仰、観音、薬師、地藏稻荷、不動、俗神の神仏、持経者、忍行者、冥府、地獄極楽（淨土）、冥途輪廻転生、靈魂の信仰）

神道思潮

●宮地直一著／昭和18年／理想社
【内容】 祭祀の本義、神祇史要領、神道の名義、上代に於ける神仏思想の習合、神代觀の展開、建武中興と神事興行、会津に於ける吉川神道、民間信仰の意義

民間信仰の話

●仏教文書伝道協会編集部／昭和25年／仏教文書伝道協会
【内容】 民間信仰とは何か、民間信仰の基調、民間信仰の諸相

民間信仰論選集 全5巻

西村 明 編・解説

- | | | |
|-----|------------------|--|
| 第1巻 | 印度宗教史、比較宗教 迷信の日本 | 定価 20,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-925-8 |
| 第2巻 | 日本宗教史 | 定価 15,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-926-5 |
| 第3巻 | 民間信仰史 | 定価 16,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-927-2 |
| 第4巻 | 日本民俗学研究 | 定価 17,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-928-9 |
| 第5巻 | 民間信仰の話、神道思潮 ほか | 定価 23,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-929-6 |

A5判 / 上製函入 平成28年2月末日刊行

揃定価 91,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-930-2 (セット)

クレス出版好評既刊書

日本の宗教教育 全14巻

島蘭 進、高橋 原、星野靖二 編・解説・解題

- | | | |
|------|---|--|
| 第1巻 | 教育宗教衝突断案、我が国民道徳と宗教との関係、
宗教と教育に関する学説及実際 | 定価 13,500 円 (税別) ISBN978-4-87733-501-4 |
| 第2巻 | 宗教教育原論 | 定価 16,500 円 (税別) ISBN978-4-87733-502-1 |
| 第3巻 | 信迎を基とせる道徳的陶冶の研究、
児童宗教教育の基礎 | 定価 15,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-503-8 |
| 第4巻 | 児童宗教々育の理論と実際、児童宗教教育 | 定価 14,500 円 (税別) ISBN978-4-87733-504-5 |
| 第5巻 | 宗教教育の原理及実際、宗教教育の本質、
宗教教育の理論と実際 | 定価 15,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-505-2 |
| 第6巻 | 宗教教育概論 | 定価 9,500 円 (税別) ISBN978-4-87733-506-9 |
| 第7巻 | 宗教教育の根本問題、教育者の為の宗教読本 | 定価 11,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-507-6 |
| | 揃定価 95,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-500-7 (セット) | |
| 第8巻 | 宗教生活叢書 8-10 | 定価 10,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-541-0 |
| 第9巻 | 宗教生活叢書 11-13 | 定価 12,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-542-7 |
| 第10巻 | 宗教生活叢書 14-16 | 定価 11,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-543-4 |
| 第11巻 | 宗教生活叢書 17-19 | 定価 11,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-544-1 |
| 第12巻 | 宗教生活叢書 20、
仏教大学講座、宗教々育講座 | 定価 9,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-545-8 |
| 第13巻 | 基督教宗教々育講座 | 定価 10,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-546-5 |
| 第14巻 | 宗教教育の諸相、創造的宗教教育 | 定価 9,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-547-2 |
| | 揃定価 72,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-540-3 (セット) | |

神道研究選集 全6巻

- | | | |
|-----|-----------|--|
| 第1巻 | 神祇史 | 定価 7,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-850-3 |
| 第2巻 | 続神祇史 | 定価 10,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-851-0 |
| 第3巻 | 神道史の研究 | 定価 10,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-852-7 |
| 第4巻 | 神道史の研究 第二 | 定価 20,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-853-4 |
| 第5巻 | 日本古典の史的研究 | 定価 16,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-854-1 |
| 第6巻 | 日本の神道 | 定価 10,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-855-8 |

揃定価 73,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-856-5 (セット)

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋
☎(03)3808-1821 ㊚(03)3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>



株式会社クレス出版

●書店名